

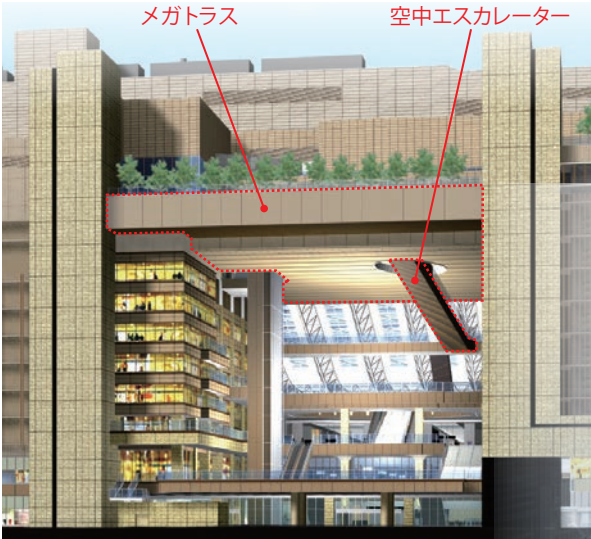
パンフレットツアーとは … お好きなテーマを選んでいただき、ご自身のペースで大阪ステーションシティを巡っていただくツアーです。

テーマ

建物ツアー

「駅」と「街」がひとつに。

大阪の新しいランドマークとして誕生した「大阪ステーションシティ」。この「まち」では公共性の高い駅空間で先進的な機能を保ちながら、「水」「緑」「時」が重なり合い、豊かなコミュニケーションを創出する「広場空間」を演出しています。ホーム上には東西長約180m・南北長約100mの巨大ドームを新設し、ノースゲートビル・サウスゲートビル・橋上駅舎とホームの一体感を出すことにより、快適で、ひとつの建造物という視点で捉えた際にも魅力あふれる駅空間を創出しています。このパンフレットをご覧いただきながら「建造物としての大阪ステーションシティの魅力」を見つけてみてください。



メガトラス

空中エスカレーター

8層
吹き抜け
構造

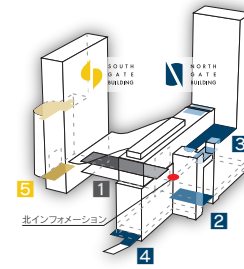
2 アトリウム広場

北の玄関口にふさわしい8層吹き抜けの開放感がある空間は、橋上駅の鉄骨地組・送り出しヤード・大屋根工事の資機材搬入ルートとして利用しながら、まずは4.4mスパンのメガトラスを施工。メガトラス架構後、空中エスカレーター（7F⇄10F）をリフトアップ工法で施工しています。

ドーム
スライド
工法

1 とき の広場

大阪駅という大規模ターミナルにおいて、駅全体を覆う巨大ドーム。列車が行き交う駅としての機能をとめることなく、安全かつ短期間でこれだけの建造物をつくり上げるために、工事関係者が英知を絞って考え付いたのがドームスライド工法。ドームを支える梁は17本、その1本の重さは約100t。これをノースゲートビルの屋上からパーツごとに「時空の広場」へ降ろし、200tもの大型クレーン車で1本に組み上げました。そしてドームは夜間に少しずつ横にスライドさせていき、徐々に翼を広げるように作られていったのです。



モデルコース

- 5 南ゲート広場
階段・エスカレーターで1Fへ
- 4 カリヨン広場
2F通路を阪急連絡通路方面へ
- 3 風の広場
アトリウム広場に隣り、ノース中央エレベーターで11Fへ
- 2 アトリウム広場
階段・エスカレーターで2Fへ
- 1 時空（とき）の広場
和らぎの庭を経由し、エスカレーターで5Fへ



3 風の広場 トランスファートラス

低層部（百貨店）と高層部（オフィス・レストラン）の用途の違いから、柱位置（スパン）が異なります。そこで12Fから14F間にトラス構造の骨組みを設けて、高層部の荷重を低層部に伝達しています。

都市計画に位置づけられた広場

2アトリウム広場 4カリヨン広場 5南ゲート広場

大阪ステーションシティは、関西の都市再生を担うまちづくりの一環として、大阪の玄関口として賑わいの創出に資する空間とする事が期待されており、大阪市が定める都市計画にも組み込まれています。

たとえば、大阪駅北地区や駅周辺の歩行者の回遊性を図るため、サウスゲートビル1Fの南ゲート広場やノースゲートビル2Fに取りこまれたアトリウム広場は、建物と一体化した空間形成の中で広場として整備され、周辺地区や鉄道駅との歩行者ネットワークの結節点としての機能を備えています。また、ノースゲートビル2Fのカリヨン広場やサウスゲートビル15～17Fの太陽の広場は、公共的な空間として市民の憩いの場となるような広場整備を行いました。

大阪ステーションシティは、商業・業務・にぎわい機能等の質の高い都市機能の集積としてのまちづくりだけでなく、歩行者ネットワーク機能の強化、風格ある景観の創出等玄関口にふさわしい快適な都市空間を提供しています。



2008. 秋 ビル全体の鉄骨が組み上がってきているとともに、橋上駅（南北連絡橋）部分の鉄骨も姿を現しつつあります。



2009. 冬 橋上駅（南北連絡橋）の鉄骨がアークシティ大阪には到達しており、ノースゲートビルの鉄骨も次第に高く組み上がってきています。



2009. 春 ノースゲートビル西側の低層クティ大阪にはほぼ到達しており、ノースゲートビルの鉄骨も次第に高く組み上がってきています。



2009. 秋 ビルの鉄骨は完成に近づいており、駅の上ではドームを組み立てるために必要な足場が準備されています。



2010. 春 ドームの工事が進み、駅が覆われつつあります。



2010. 夏 ドームの工事はほぼ終了しました。あとは、内装工事などを進めることとなります。



2011. 冬 2011年5月4日の開業が決定しました。